

営農ウィークリーNEWS

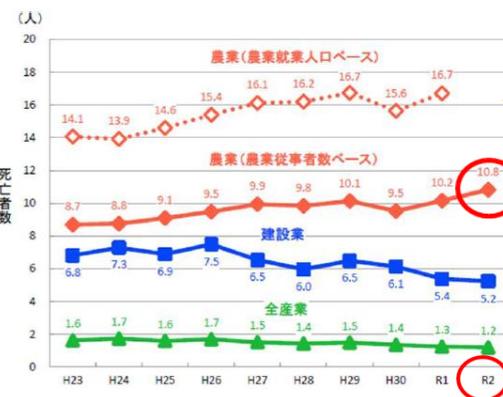
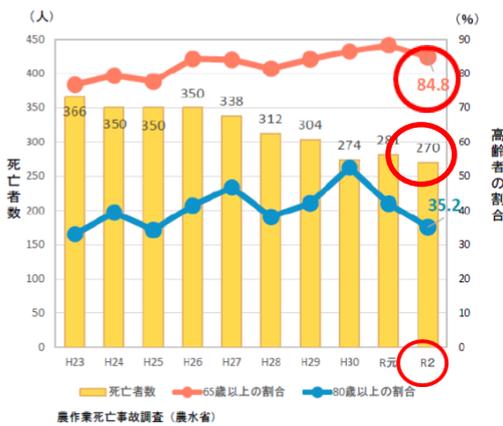
農作業事故にご注意下さい！！

●農作業事故の発生状況

令和2年度の全国の農作業事故死亡者数は**270人**であり、65歳以上の高齢者の割合が**84.8%**を占めています。農業就業者10万人当たりの死亡事故者数は**10.8人**と過去10年間で最も高い水準となり、他産業との差は**拡大傾向**にあります。

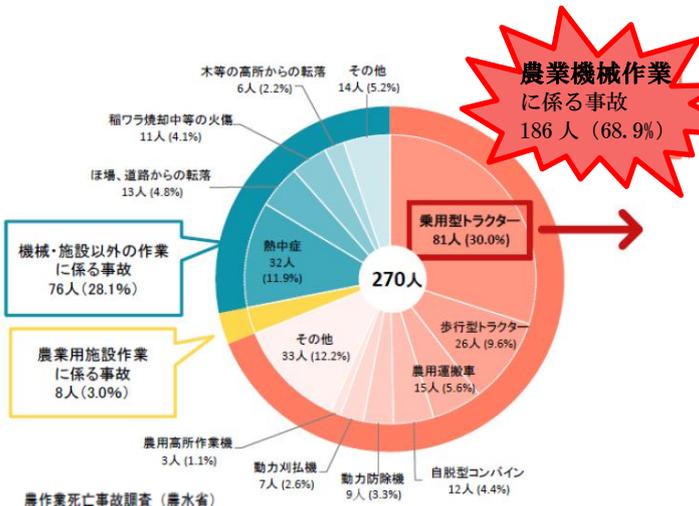
農作業死亡事故者数の推移

就業人口10万人当たり死亡者数の推移



農業は建設業・全産業よりも高い水準となり、他産業による死亡事故が減少する中、農作業による事故は増加しています！

要因別の死亡事故発生状況 (令和2年)



令和2年度農作業死亡事故を要因別にみると、「**農業機械作業に係る事故**」が**186人(68.9%)**、その内「**乗用型トラクターに係る事故**」が**81人(30.0%)**と最多となっています。

●農作業死亡事故を防止するには

乗用型トラクターの転落・転倒事故対策が重要です。

トラクター運転時には、

○安全キャブ・フレームを必ず装備すること

○シートベルト・ヘルメットを着用すること

農作業中の危険を認識し、上記のような事前対策を徹底することで農作業事故を未然に防いでいきましょう。裏面にも事故対策の詳細を掲載しておりますのでぜひご活用ください！！

出展：農林水産省 WEB サイト https://www.maff.go.jp/j/seisan/sien/sizai/s_kikaika/anzen/attach/pdf/index-31.pdf

—TAC information—

2022年産の栽培に、今からでも間に合います！！

京おくらを一緒に作りましょう！

「京おくら」の生産者を

大募集
しています！

ぜひ、一緒に「京おくら」を盛り上げましょう！



JAでは、京おくら生産者を大募集しています！

オクラは、栽培が比較的容易で、初期投資も少なく栽培初心者でも取り組みやすい品目です。栽培面積は2a程度でも十分出荷できます。一緒に京おくらを盛り上げましょう！

興味がある方は、各経済センターまたは本店経済部まで！

春の農作業安全運動を進めましょう

運動期間：4月1日～6月30日

春の農繁期となり農業機械を使う機会が多くなります。以下の事項に留意しながら、特に春の呼びかけ事項に注意して、地域での農作業事故ゼロを目指しましょう。

『しめよう！シートベルト』

<春の重点呼びかけ事項>

- 1 安全キャブ・フレーム付きトラクターでは、シートベルト・ヘルメットを着用しよう。
- 2 機体が大きいトラクター及び田植機の運転では、運転席からは見えない死角が多く存在する。死角などにも十分に注意し、後進時にはより慎重に運転しよう。

<事故防止のための注意事項>

- 1 ほ場の出入りや段差を十分注意して、転落・転倒による事故を防ごう。
 - ・トラクターでの作業が終わったら、ほ場内でブレーキペダル連結
 - ・トラクターの道路走行は低速で
 - ・傾斜地での高速移動やクラッチ操作の禁止
 - ・小型作業車はスピードを上げたらクラッチ操作禁止
- 2 トラクターや田植機など農業機械の点検・異常発生時には必ずエンジンを停止し、十分な安全を確保して作業しよう。
- 3 耕耘機での後退時は後方確認を徹底し、転倒や巻き込まれによる事故を防ごう。
- 4 刈払機は無理な体勢では使用せず、作業環境を確認しながら適切な装備で作業しよう。
- 5 作業機を付けた状態で公道走行する際には、灯火器類、作業機の幅（1.7m以下）、運行速度、運転免許を確認

京都府農作業安全推進会議
(京都府、京都府農業機械士協議会、
JAグループ京都、京都府農業機械商業協同組合)

春の重点呼びかけ事項

安全キャブ・フレーム付きトラクターではシートベルト・ヘルメットを着用しよう。



死角などにも十分に注意し、後進時にはより慎重に運転しよう。



春の農作業安全運動 実施中！

『しめよう！シートベルト』

ほ場の出入りや段差を十分注意して、転落・転倒による事故を防ごう。



農業機械の点検・異常発生時には必ずエンジンを停止しよう。



耕耘機での後退時は後方確認を徹底しよう。



刈払機は無理な体勢では使用せず、作業環境を確認しながら適切な装備で作業しよう。



作業機を付けて公道走行する際には、灯火器類、作業機の幅、運行速度、運転免許を確認しよう。



事故防止のための注意事項